

地域づくり表彰

清流と山菜の里 ほその村
(山形県尾花沢市)

地域資源を活かし集落活性化

清流と山菜の里
ほその村

会長

五十嵐 幸一



1. 尾花沢市の概要

尾花沢市は、山形県の北東に位置し、標高は70mから1,500mと起伏に富み、奥羽山脈や出羽丘陵などの山々に囲まれた盆地を形成しています。短い日照時間と低温、多湿、多雪のため、春の融雪が遅く、農耕期間が短いのが尾花沢盆地の特徴です。冬の季節風が山々の稜線にさえぎられ、雪を多く降らせるため、平野部でも積雪量が2mに及ぶことがある豪雪地帯です。

雪によってもたらされた豊かな水と、尾花沢盆地特有の朝夕の寒暖差の激しい気候は、多くの農産物を育みます。中でも、夏スイカの生産量は日本一。「尾花沢スイカ」のブランドで全国各地に出荷されています。スイカの他にも、肉牛の肥育や、そばの生産にも力を入れています。尾花沢牛の肥育頭数は東北一。尾花沢そばは、作付面積県内一で味もよく香り高いそばが打ちあがります。

大正から昭和初期の木造旅館が立ち並び大正ロマン漂う「銀山温泉」には国内外からお客様が訪れ、灌漑用の人造湖「徳良湖」は、全国的に有名な「花笠音頭」の発祥地です。

紀行文「おくのほそ道」で知られる俳人、松尾芭蕉は、尾花沢の友人鈴木清風を訪ね、先を急ぐ道中にあつて10泊も逗留しています。清風の手厚いもてなしに、芭蕉は旅の疲れを癒したといいます。現在でも、尾花沢市民はこうしたおもてなしの心を大切にしています。



大正ロマン漂う「銀山温泉」

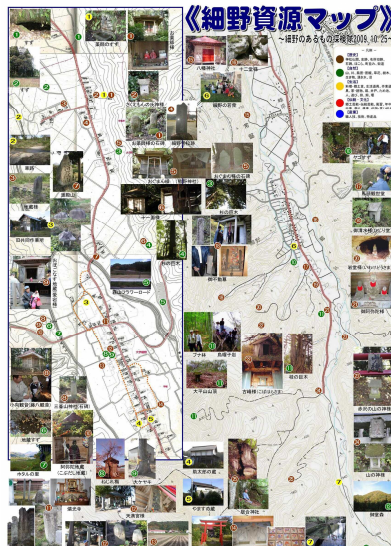
2. 活動開始の背景・経緯

細野集落は、71世帯196人が暮らす小さな山あいの集落です。少子高齢化・過疎化の進行により、集落を維持していくための共同作業、防災活動、季節行事、文化や技能の伝承などの集落機能の低下、また、農業者の高齢化や担い手不足により、耕作放棄地が年々増加し、農作物の鳥獣被害や景観の悪化などが危惧されていました。



細野集落の全景

住み慣れた地域で楽しく住み続けるためには、みんなで知恵を出し合い、工夫して行動を起こすことが重要と考え、山形県や尾花沢市の事業による「地域づくり講座」や「地域のお宝探検事業」に積極的に取り組み、足元にある地域資源を再認識する活動を始めました。



地域のお宝マップ

県内外の先進事例視察等を経て、集落にある豊かな自然・文化・歴史・景観等を活用して、都市と農村の交流や地域資源の有効活用を図り、10年先20年先を見据えた新しい地域づくりに挑戦することになりました。

細野集落の活性化に取り組むために、話し合いの場づくり・認め合う人間関係づくり・価値観の共有・何事にもチャレンジする・地域資源を活用した雇用創出・少子化対策を目標として、平成22年4月に地域内の全戸が参加する「清流と山菜の里ほその村」を設立しました。



地域づくり講座の様子

3. 活動の内容

《地域資源を活用した交流事業》

村の景観保全と荒廃農地の拡大抑制のため、転出者や離農者の農地を借り受け、そば栽培やワラビ園を造成しています。ワラビ園は地域を訪れる方の増加に寄与し、そばは新そばまつりや各イベントで提供するほか、味噌蔵を改修した農家レストラン「蔵」のメインメニューになっています。

また、そば畑のオーナー制を実施しており、年3回のイベントを開いて体験交流を行っています。



秋のそば打ち体験

交流事業として、四季折々のイベントを実施しており県内外から多くのお客様が細野集落を訪れます。

5月の春山登山と山菜狩りツアーでは、やまがた百名山に選定されている大平山登山と山菜の王様アイコが取れる山菜狩りを体験。細野を熟知した地域住民が案内役です。



山菜狩りツアー

夏から秋にかけてのそばオーナー事業として、そばの種蒔き、そばの花鑑賞、新そばでのそば打ち体験のほか、ブルーベリー収穫体験、里芋収穫体験、漬物体験などを通して細野を満喫してもらっています。

11月には新そばと味覚まつりを開催して、新そばやキノコ料理を堪能してもらい、冬の親雪メープルサップ採取体験には、多くの親子らが参加して、地域に自生するイタヤカエデの樹液を採取し、雪遊びに興じます。



メープルサップ採取体験

どの事業も農家レストラン「蔵」で参加者と住民との交流会を行い、「ただいま」と何度も訪れていただけるよう、顔の見える関係づくりを心掛けています。



参加者と住民の交流会

《女性の活躍事業》

地域内の女性による「友輪会」を組織して、空き家の農作業小屋を改

修した「母ちゃん広場」で農産物加工品の製造・販売や、イベント等の料理の提供、農家レストラン「蔵」の運営にあたっています。

農家レストランは、地域活性化の拠点であると同時に、お母さんたちがおしゃべりする場となって、自分たちの元気の拠点にもなっています。

レストランで提供する、イワナの唐揚げと手打ちそばをメインに、旬の野菜で付け合わせの小皿が変わる「季節の田舎膳」が人気です。



季節の田舎膳

4. 成果

《伝統行事の復活》

細野集落で長年途絶えていた、農作物につく害虫を駆除して豊作を祈願する伝統行事「虫送り」が復活しました。虫送りが行われていた当時のことを知る高齢者と行事の主役となる親子、消防団員が協力し、集落を挙げての世代を超えた交流行事となっています。

《支え合いの地域づくり事業》

定期的な役員会や各種イベント開催に関わることで、コミュニケーションが高まり、誰もが憩える桜公園の造成や集落除雪活動につながりました。

雪国で暮らすうえで高齢者が一番困るのが雪ですが、身内で処理していた除雪も、高齢化や人口減少によって困難になっている声を踏まえ、ほその村に「除雪隊」を組織して高齢者や除雪困難者宅、空き家等の冬期間の除雪作業を行っています。昨シーズンは、高齢者宅17戸と空き家3戸で実施しました。



除雪隊の活動

《地域活性化の活動からの広がり》
やまがた百名山に選定された「大

平山」「御堂森」には、年間約3,000人の登山愛好者が訪れますが、安全確保と景観保全のため、登山道の整備、新規登山道の開設を行っています。登山道整備に伴って、技術向上が図られ、地元の森林組合より3名の雇用に繋がりました。

また、毎年1,500人を超える多くの方が交流事業で村を訪れます。参加者の中で村づくりを手伝いたいと空き家に移住した方が、古民家カフェや民宿を開業され、地域活動の幅が広がりました。

移住者の提案で、使われない農作業小屋を「ほその村ミュージアム」に整備して移住者の作品と地域の農産物や工芸品を展示・販売したことで、イベントや登山で訪れる方たちに立ち寄っていただき、新たな細野ファンの獲得に繋がっています。



ほその村ミュージアム

5. 課題と展望

新型コロナ感染拡大の影響で、イベント開催や農家レストラン運営を休止したり、取引のあった仙台市のカフェでも営業を縮小してメープルシロップの在庫を抱えたこともありました。その際も、知恵を出し合って、細野産のホップとメープルシロップを使ったクラフトビールの企画・販売を行いました。ピンチをチャンスと捉え、何もない田舎だからこそ故郷らしい親しみある「にぎやかな田舎」づくりの挑戦を続け、地域資源を活用したビジネスや地域産業が生まれて働く場が確保され、住民生活の安定に繋がるよう活動していきます。



ほその村の住民たち